

千葉市感染症発生動向調査情報

2014年 第46週 (11/10-11/16) の発生は？

1 定点報告対象疾患(五類感染症)

報告のあった定点数		46週	45週	44週	43週
小児科		18	18	18	18
眼科		5	5	4	5
インフルエンザ		28	28	28	28
基幹定点		1	1	1	1

上段:患者数
下段:定点当たりの患者数
「定点当たりの患者数」とは
報告患者数/報告定点数。

定点	感染症名	注意報	千葉市				千葉県
			11/10-11/16 46週	11/3-11/9 45週	10/27-11/2 44週	10/20-10/26 43週	11/3-11/9 45週
小児科	RSウイルス感染症	○	11 0.61	4 0.22	10 0.56	6 0.33	86 0.65
	咽頭結膜熱		0 0.00	3 0.17	0 0.00	0 0.00	32 0.24
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	○	47 2.61	25 1.39	35 1.94	29 1.61	258 1.94
	感染性胃腸炎		112 6.22	62 3.44	71 3.94	60 3.33	484 3.64
	水痘		15 0.83	5 0.28	16 0.89	12 0.67	113 0.85
	手足口病		21 1.17	18 1.00	13 0.72	21 1.17	115 0.86
	伝染性紅斑		1 0.06	0 0.00	5 0.28	4 0.22	38 0.29
	突発性発しん		14 0.78	16 0.89	9 0.50	16 0.89	67 0.50
	百日咳		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00
	ヘルパンギーナ		0 0.00	3 0.17	1 0.06	1 0.06	15 0.11
	流行性耳下腺炎		1 0.06	6 0.33	3 0.17	5 0.28	72 0.54
インフル	インフルエンザ(高病原性鳥インフルエンザを除く)	○	31 1.11	16 0.57	16 0.57	8 0.29	81 0.39
眼科	急性出血性結膜炎		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00
	流行性角結膜炎		3 0.60	1 0.20	0 0.00	0 0.00	15 0.44
基幹定点	細菌性髄膜炎(髄膜炎菌性髄膜炎を除く)		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	2 0.22
	無菌性髄膜炎		0 0.00	0 0.00	0 0.00	1 1.00	1 0.11
	マイコプラズマ肺炎		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	4 0.44
	クラミジア肺炎(オウム病を除く)		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00
	感染性胃腸炎(ロタウイルスに限る)		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	1 0.11

★★:流行中 ★:やや流行中 ◎:増加 ○:やや増加 →:変化なし ↓:やや減少 ↓↓:減少

2 全数報告対象疾患(5件)

病名	性	年齢層	診断(検査)方法	病名	性	年齢層	診断(検査)方法
結核	男性	70歳代	病原体等の検出	腸管出血性大腸菌感染症	女性	10歳代	病原体の検出及び ペロ毒素の確認
結核	女性	30歳代	IGRA検査				
結核	女性	60歳代	IGRA検査	急性脳炎	男性	10歳未満	中枢神経症状

・結核3件(227)、腸管出血性大腸菌感染症1件(19)、急性脳炎1件(18)の報告があった。

※ 累積件数は速報値であり、データが随時訂正されるため変化します。

定点当たり報告数 第46週のコメント

<RSウイルス感染症> 前週より増加し0.61となった。過去10年の同時期と比べると多い。

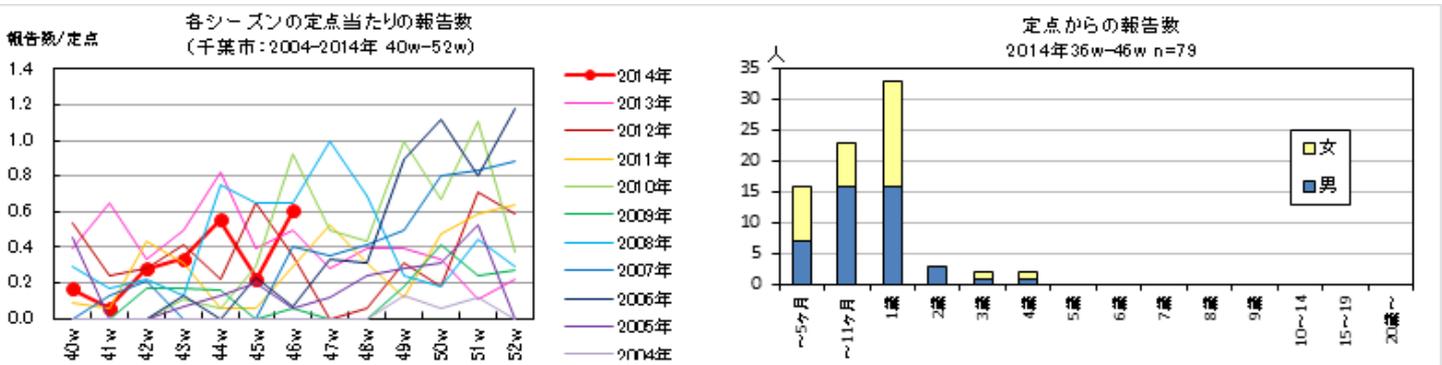
<A群溶血性レンサ球菌咽頭炎> 前週より増加し2.61となった。過去10年の同時期と比べると多い。

<インフルエンザ> 前週より増加し1.11となり、流行の目安とされる1.0を上回った。過去10年の同時期と比べると多め。

■ トピック ■

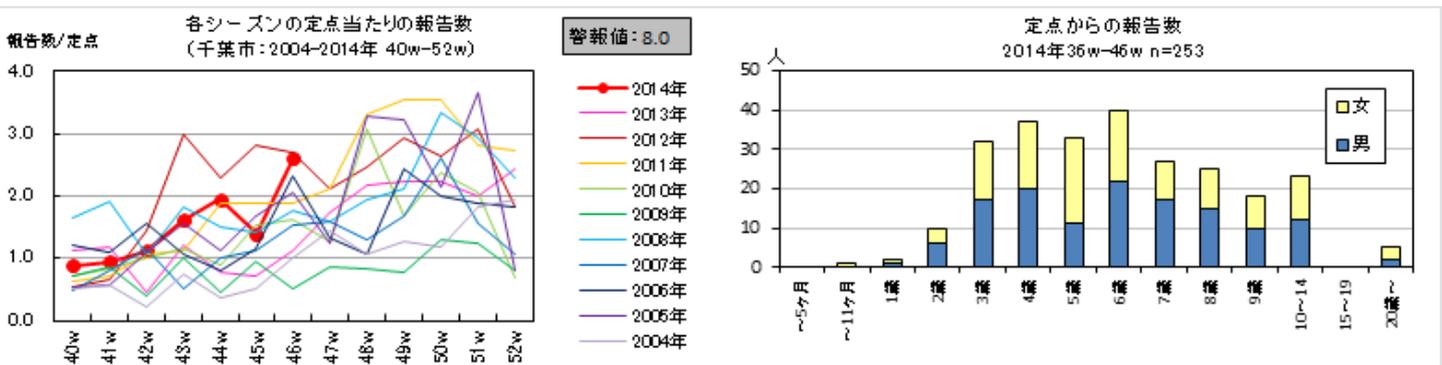
<RSウイルス感染症>

2014年の全国レベルの第45週現在は過去7年の同時期と比べて多くなっています。都道府県別では、鳥取県、山形県、島根県の順に多く報告されています。千葉県は、全国レベルより少なめとなっています。千葉市の第46週現在は前週より増加し0.61となり過去10年の同時期と比べて多くなっています。区別の発生状況では、緑区(1.5/定点)で最多で同区の1歳未満で最も多く報告されています。今シーズンである2014年第36週から第46週現在の累積報告数(n=79)によると、性別では男性が55.7%(44名)、女性が44.3%(35名)で、年齢階級別では1歳(41.8%:33名)、6か月~11か月(29.1%:23名)、0~5か月(20.3%:16名)の順に多くなっています。



<A群溶血性レンサ球菌咽頭炎>

2014年の全国レベルの第45週現在は過去7年の同時期と比べて多くなっています。都道府県別では、北海道、鳥取県、福岡県の順に多く報告されています。千葉県は、全国レベルよりやや多めとなっています。千葉市の第46週現在は前週より増加し2.61となり過去10年の同時期と比べて多くなっています。区別の発生状況では、稲毛区(5.67/定点)で最多で同区の3歳で最も多く報告されています。今シーズンである2014年第36週から2014年第46週現在の累積報告数(n=253)によると、性別では男性が52.6%(133名)、女性が47.4%(120名)で、年齢階級別では6歳(15.8%:40名)、4歳(14.6%:37名)、5歳(13.0%:33名)の順に多くなっています。



<インフルエンザ>

2014年の全国レベルの第45週現在は過去7年の同時期と比べて少ない状況です。都道府県別では、長崎県、埼玉県、沖縄県の順に多く報告されています。千葉県は、全国レベルよりやや多めとなっています。千葉市の第46週現在は前週より増加し1.11となり、流行の目安とされている1.0を上回りました。過去10年の同時期と比べて多めとなっています。区別の発生状況では、若葉区(1.75/定点)で最多で同区の7歳で最も多く報告されています。今シーズンである2014年第36週から第46週現在の累積報告数(n=78)によると、性別では男性が56.4%(44名)、女性が43.6%(34名)で、年齢階級別の一年代当たりでは8歳(20.5%:16名)、9歳(16.7%:13名)、5歳(9.0%:7名)の順に多くなっています。

